

地元からの主な意見・質問に対する回答（案）

項目		意見	回答
検討部会資料、 内容について	放水路案	放水路案は、河口の新設に伴う堆積土砂の管理や堤防の保守延長が増加するなど、引堤案・掘削案に比べて維持管理における負担が大きいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 引堤案・河道掘削案については、第3回部会で示しているとおりに、整備計画目標流量（松本地点 1500m³/s > 1200m³/s）を確保する必要があり、関川本川に影響を与えるため採用できません。参考として検討した結果からも、流下能力確保のための引堤案・河道掘削案では年間約 12 万 m³ の土砂除去が必要となるため、河道維持上の課題があります。 ➤ 整備計画で示されている放水路河口部が位置する海岸部では、関川河口部の傾向とは異なり、侵食傾向となっておりますが、放水路案となった場合の影響など、維持管理面も十分考慮の上、検討して参ります。
	複合案	保倉川の河床を基本方針レベルまで掘り下げてから広げる案のように複合的な検討は行わないのか。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「保倉川の河床を基本方針レベルまで掘り下げてから広げる案」については、掘り下げる深さは基本方針レベルの 1200m³/s 対応までが限界であり、引堤等による流量増は、関川本川に影響を与えるため採用できません。 ➤ なお、複合案として、遊水地+田んぼダム案について第3回検討部会で検討し、棄却されています。 ➤ 加えて、長期的目標である基本方針流量を満たすためには、更なる流量を処理する必要があります、遊水池か放水路を実施することとなります。
その他	放水路ルートについて	最適な治水対策案として放水路案が確認された場合、ルート案は複数検討するのか。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 最適な治水対策案として放水路案が確認された場合、詳細については、整備効果が発揮され、既存の土地利用に配慮するとともに、洪水の疎通のしやすさ、経済性、施工性等を踏まえて、今後進められる現地調査やまちづくりの議論の中で、流域住民の皆様とともに上越市をはじめとした関係機関と連携しながら、放水路整備に伴う地域分断という課題などに対応できるよう配慮して参ります。
	津波対策	最適な治水対策案として放水路案が確認された場合、津波に対する心配があるがどのように対応するのか。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 現在、新潟県において L1 津波※（設計津波の水位）について検討を行っているところであり、その結果に基づき放水路の津波対策に関する検討を行い、必要となる対策については実施いたします。 ➤ ※L1 津波：比較的発生頻度の高い津波で防波堤など構造物によって津波の侵入を防ぐ海岸保全施設等の建設をする上で想定する津波